

2020年3月期 第1四半期決算説明資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

グループコミュニケーション部 IRグループ

TEL: 03-3248-2113

URL : <https://www.nichirei.co.jp/ir>

グループ全体の業績は計画通り進捗



単位：億円

	第1四半期				通期		
	実績	前年同期間比		通期見込に対する進捗率	見込	前年同期間比	
		増減	率			増減	率
加工食品	582	22	4%	25%	2,350	84	4%
水産	155	-12	-7%	21%	750	38	5%
畜産	219	-6	-3%	23%	940	29	3%
低温物流	500	12	2%	24%	2,044	34	2%
不動産	12	0	4%	26%	47	-1	-2%
その他	12	0	3%	18%	65	7	12%
調整額	-52	-2	-	-	-216	-12	-
売上高合計	1,428	15	1%	24%	5,980	179	3%
加工食品	40	7	22%	25%	159	13	9%
水産	-0	-1	-	-	4	2	119%
畜産	3	-1	-21%	19%	14	-1	-4%
低温物流	27	0	1%	23%	116	2	2%
不動産	6	0	4%	29%	19	-2	-9%
その他	-3	-4	-	-	3	-0	-11%
調整額	-3	0	-	-	-10	-4	-
営業利益合計	69	3	4%	22%	305	10	3%
経常利益	71	2	2%	23%	305	6	2%
当期純利益	45	-1	-3%	22%	200	1	0%

為替レート	2019年度 見込	2019年度 1Q実績	2018年度 1Q実績
米ドル/円	110.00	110.21	108.30
ユーロ/円	130.00	125.16	133.23
バーツ/円	3.40	3.49	3.43

注：①当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」を指しております。

②為替レートの実績は1月～3月の期中平均で算出しております。

- 1.売上高は、主力の加工食品と低温物流が堅調に推移し増収。
- 2.営業利益は、加工食品の拡販や関係会社の業績改善が寄与し増益。
- 3.通期見込は5月14日に発表した数値から変更していない。

主力商品の販売は好調に推移、関係会社の業績も改善

単位：億円

		第1四半期				通期		
		実績	前年同期間比		通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比	
			増減	率			増減	率
加工食品	売上高 計	582	22	4%	25%	2,350	84	4%
	家庭用調理品	154	7	5%	24%	636	33	5%
	業務用調理品	244	-2	-1%	24%	1,020	36	4%
	農産加工品	50	1	3%	25%	200	7	4%
	海外	91	14	18%	27%	337	11	3%
	その他	43	0	1%	27%	157	-3	-2%
	営業利益	40	7	22%	25%	159	13	9%

- 家庭用調理品はリニューアルした米飯類など主力商品の販売が伸長し増収。
 - 業務用調理品は減収となったが、中食ルート向けにチキン加工品の拡販を進め、通期では増収を見込む。
 - 海外では米国のイノバジアン・クイジーン社の販売が堅調に推移し増収。
- 営業利益は家庭用調理品の増収効果に加え、海外関係会社の業績が改善したことにより増益。

国内事業を中心に業績は計画通りに進捗

単位：億円

		第1四半期				通期		
		実績	前年同期間比		通期見込に対する進捗率	見込	前年同期間比	
			増減	率			増減	率
低温物流	売上高計	500	12	2%	24%	2,044	34	2%
	国内小計	404	14	4%	25%	1,608	17	1%
	物流ネットワーク	245	17	8%	25%	963	26	3%
	地域保管	159	-3	-2%	25%	646	-9	-1%
	海外	90	-2	-2%	23%	398	15	4%
	その他・共通	5	0	3%	13%	38	2	7%
	営業利益計	27	0	1%	23%	116	2	2%
	国内小計	27	1	6%	26%	106	2	2%
	物流ネットワーク	10	1	10%	25%	41	2	5%
	地域保管	17	1	4%	26%	65	0	1%
海外	2	-0	-7%	16%	12	-0	-2%	
その他・共通	-2	-1	-	-	-2	-0	-	

注：地域保管の一部の拠点を物流ネットワークへ移管

1.国内

- ・ 保管需要を着実に取り込んだことに加え、TC（通過型センター）事業が好調に推移し増収。
- ・ 荷役作業料や再保管費用が増加したものの、増収効果や業務効率化などにより営業利益は前期を上回る。

2.海外

欧州では、果汁の荷動き鈍化やユーロ安による為替換算影響を受けたが、支配在庫の拡大や運送需要の取込みを進め、通期計画達成を図る。

施策を着実に実行し、通期計画達成をめざす

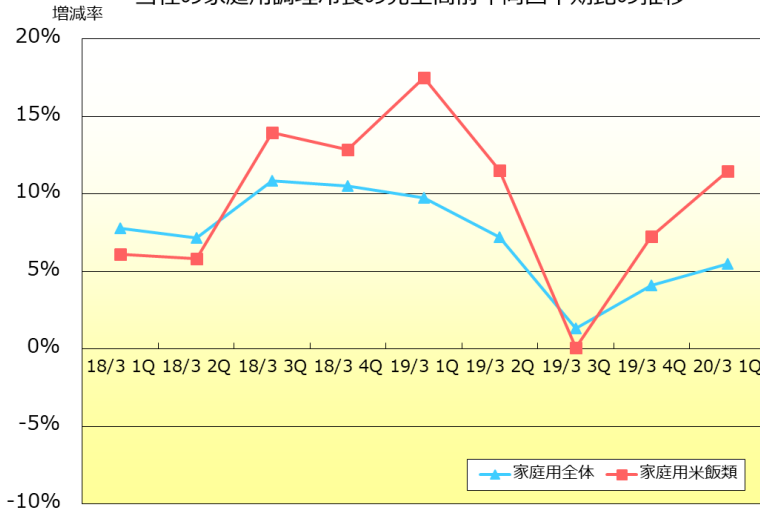
単位：億円

		第1四半期				通期		
		実績	前年同期間比		通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比	
			増減	率			増減	率
水産	売上高	155	-12	-7%	21%	750	38	5%
	営業利益	-0	-1	-	-	4	2	119%
畜産	売上高	219	-6	-3%	23%	940	29	3%
	営業利益	3	-1	-21%	19%	14	-1	-4%

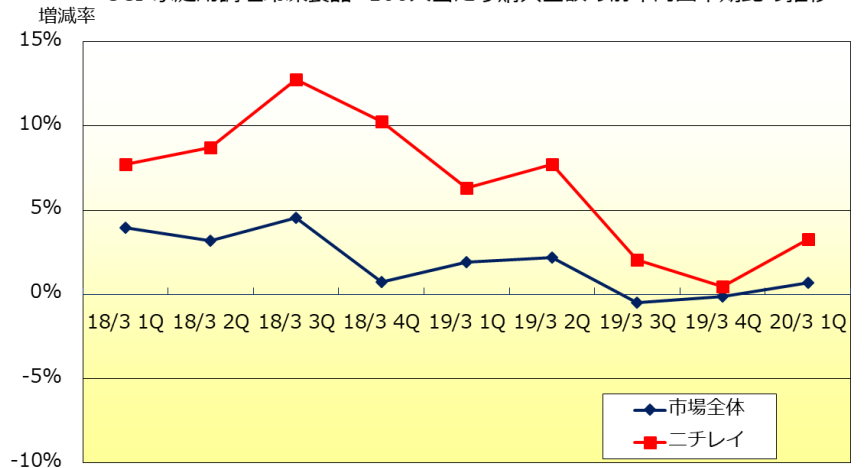
- 1.水産は、「たこ」の国内販売価格の低下が影響し減収・減益となったが、引き続き外食や中食向けの販売に注力し、計画達成をめざす。
- 2.畜産は、国産チキン相場は軟調に推移するなか、需要動向を注視した買い付けを徹底するとともに加工品の拡販を図る。

参考資料

当社の家庭用調理冷食の売上高前年同四半期比の推移

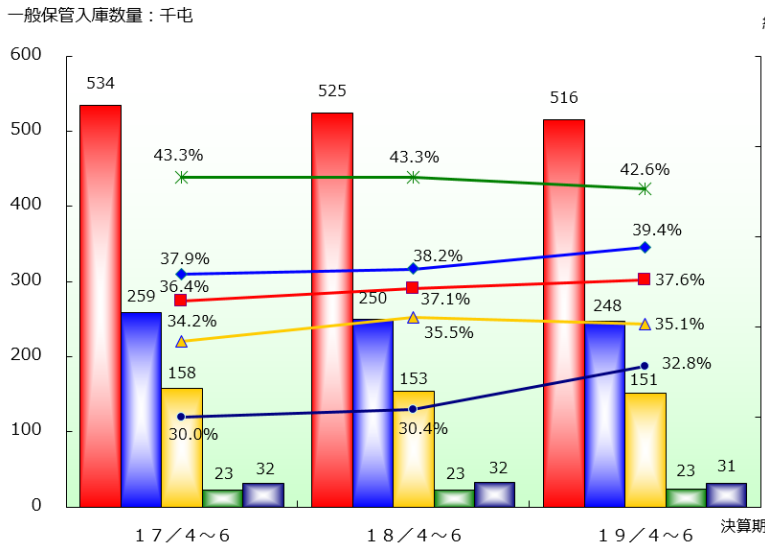


SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年同四半期比の推移

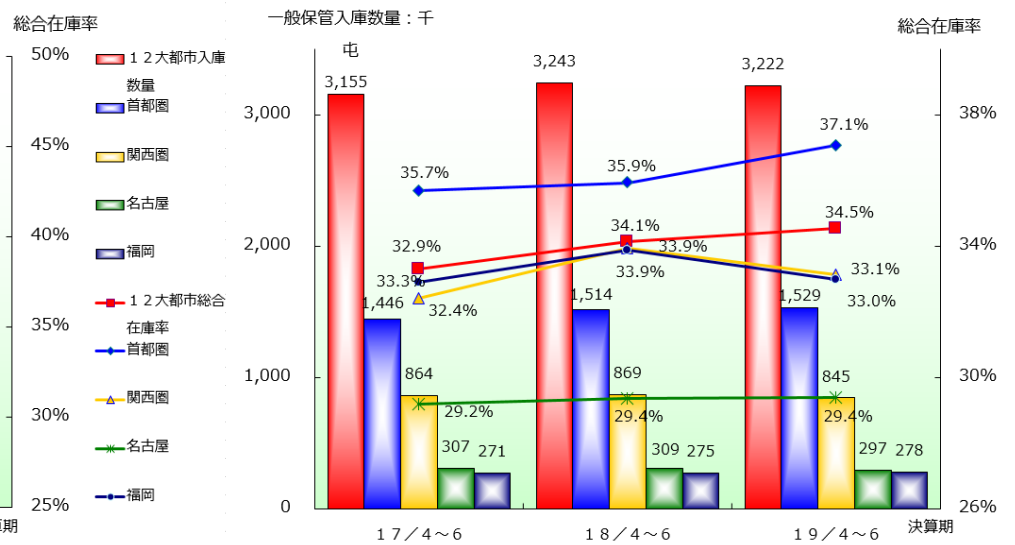


出典：インテージSCI（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同四半期比。購入ルート＝生協店舗を含む）

ニチレイグループの冷蔵倉庫稼働状況



業界の冷蔵倉庫稼働状況



注：在庫率とは冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。